

各関係機関の長  
各病害虫防除員 様

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター所

長

## 病害虫防除情報第4号

県内のシルバーリーフコナジラミにおいて主要な薬剤に抵抗性を示す個体群が確認されましたので、各種薬剤に対する感受性の情報をお知らせします。

各地域の発生状況を把握しながら、適切な防除指導をお願いします。

### 1. 感受性の概要

- 1) 13 薬剤について総合農試生物環境部で感受性の検定を行った結果(表1)、供試個体群は対照の感受性個体群と比べて、アクタラ顆粒水溶剤、アドマイヤー水和剤、ダントツ水溶剤、バリアード顆粒水和剤、トレボン乳剤、ハチハチ乳剤に対する感受性が極めて低く、これらの薬剤に対して抵抗性を持つと考えられる(図1)。
- 2) ベストガード水溶剤、アルバリン顆粒水溶剤、サンマイルフロアブル、モレスタン水和剤、アフーム乳剤、スピノエース顆粒水和剤に対する感受性は高く、実用上高い防除効果が期待できる。モスピラン水溶剤は、やや感受性が低かったものの、実用的な防除効果が期待できる。(図1)。
- 3) 今回の試験結果は、シルバーリーフコナジラミの成虫に対する結果であり、卵、幼虫等に対する殺虫効果は不明である。

### 2. 防除対策

- 1) シルバーリーフコナジラミは多犯性で多くの植物に寄生し問題となっていることから、現在、抵抗性を確認していない地域でも、各薬剤の防除効果に注意し、感受性低下が疑われる場合は、有効な薬剤を用いた防除に切り替える。
- 2) 今回、検定した個体群は各種薬剤に対して感受性が低いことから、今後は、感受性の高い有効な薬剤の抵抗性発達を回避する観点からも連用は極力行わず、より一層ローテーション散布を心がける。  
また、抵抗性発達の可能性が低いポタニガード乳剤等の微生物農薬や粘着くん液剤等のコナジラミを物理的に窒息死させる薬剤を防除体系に組み込む。
- 2) 施設栽培では防虫ネットを必ず設置するとともに、反射マルチや近紫外線カットフィルム、黄色粘着板等の農薬に依存しない物理的防除手段を利用する。
- 3) 増殖源である栽培地周辺の雑草の除草を徹底するとともに、次作の発生源となることから、栽培終了後は必ず施設を密閉(蒸し込み)処理して、完全に死滅させてから作物を片づける。
- 5) 防除薬剤等その他の詳細については、病害虫防除・肥料検査センター、総合農試生物環境部、農業改良普及センター等関係機関に照会すること。また、農薬使用基準を遵守し、危被害防止に努める。

### 3. 具体的なデータ

表1. 供試薬剤の一覧

薬剤の分類	薬剤名(商品名)	有効成分	検定濃度(倍)
ネオニコチノイド系	アクタラ顆粒水溶剤	チアメトキサム10%	3000
"	アドマイヤー水和剤	イミダクロプリド10%	2000
"	アルバリン顆粒水溶剤	ジノテフラン20%	2000
"	ダントツ水溶剤	クロチアニジン16%	4000
"	バリアード顆粒水和剤	チアクロプリド30%	4000
"	ベストガード水溶剤	ニテンピラム10%	1000
"	モスピラン水溶剤	アセタミプリド20%	4000
合成ピレスロイド系	トレボン乳剤	エトフェンプロックス20%	1000
ピラゾール系	サンマイトフロアブル	ピリダベン20%	1000
その他	ハチハチ乳剤	トルフェンピラド15%	1000
キノキサリン系	モレスタン水和剤	キノキサリン25%	3000
マクロライド系	アフアーム乳剤	エマクチン安息香酸塩1%	2000
スピノシン系	スピノエース顆粒水和剤	スピノサド25%	5000

注) 検定濃度はピーマンに登録のある剤は、ピーマンでの登録希釈倍数に準じ、その他はトマトの登録希釈倍数に準じた。

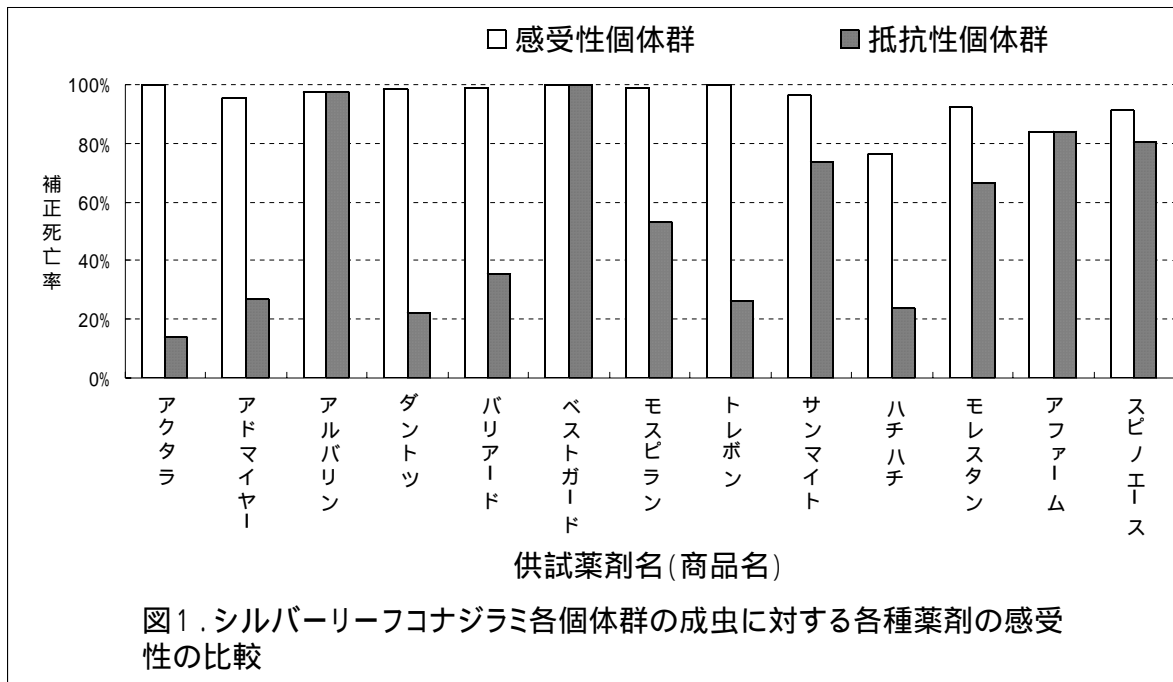


図1. シルバーリーフコナジラミ各個体群の成虫に対する各種薬剤の感受性の比較

注1) 抵抗性個体群：2004年12月に西都市の促成ピーマンから採取した個体群。

感受性個体群：独立行政法人野菜茶業研究所において、国内での侵入当初に採取され、継代飼育された個体群。

注2) 検定は感受性個体群はキャベツ葉片、抵抗性個体群はピーマン葉片を用いて行い、各葉片を各供試薬剤の常用濃度に調整した薬液に浸漬し、風乾後各供試虫を放飼し、48時間後の死亡率を調査した。これを無処理の死亡率で補正した数値を補正死亡率とした。

《連絡先》  
 病害虫防除・肥料検査センター  
 松浦  
 TEL：0985-73-6670  
 Fax：0985-73-7499  
 E-mail：byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp